

6章 3R リーダー活動支援プログラムの開発及び試行

6.1. 3Rリーダー活動支援プログラムの開発及び試行の概要

3R検定は、ESD（持続可能な開発のための教育：Education for Sustainable Development）で言うところの「知の移転」から、「知の獲得」そして「知の連結」を目指している。

3Rリーダー行動・活動を支援・促進するための環境教育プログラムを模索するため、いくつかの取り組みから成る3Rリーダー活動支援プログラムを試行した。具体的には、

- ・ 3R検定合格者向けのニュースレター（月一回）の作成・発行
 - ・ 同じく合格者向けの参加型プログラム「3Rリーダーデビュー&スキルアップ講座」（以下「3Rリーダーデビュープログラム」と呼ぶ）の開発・試行
 - ・ リーダー活動志望者（3R検定合格者に限定せず）向け講演・研修会の企画・実施
- などであり、その成果を検証した。

ここでは、特に2009年度に実施した「3Rリーダーデビュープログラム」を中心に報告する。

6.2 3R検定合格者向けのニュースレター

これまでのアンケート調査結果などをもとに、「合格者同士の情報交換」「最新情報（特にリーダー活動に資する情報）の提供」が重要であると考え、月一回ニュースレターを発行した。原則としてメール発信（無料：一部合格者専用ウェブサイトへリンク）とした。

6.3 3Rリーダーデビュープログラムの開発・試行

3R 検定合格者が様々な活動を実践し、ネットワークを形成していくことを支援する仕組み作りに取り組んだ。本プログラムは、京エコロジーセンターと京都市ごみ減量推進会議の協力を得て、3R 検定合格者が地域でプレゼンテーション・デビューを果たすための知識や技能の習得とそのきっかけ作りを目的とするリーダー養成の教育プログラムとしての試みである。いわゆる資格試験においては、「知の移転」から「知の獲得」を目的としてフォローアップやスキルアップのためのプログラムが用意されていることが一般的である。したがって、その内容は専門知識や技能をさらに極めたり掘り下げるものであったり、時間の経過に伴う知識や情報を追加、更新したり、技量の確認を行うためのカリキュラムが構成される。しかし、今回 3R 検定で取り組んだ教育プログラムは、「知の獲得」から「知の連結」を目指すものであり、3R 検定合格者が実践に臨むための専門知識や関連情報、技能の習得に関連するカリキュラムは用意しなかった。これは、本研究のアンケート結果などにも基づいて検討したものである。

具体的には、3R リーダーデビュープログラムでは、3R リーダー等が 3R 関連の幅広い知識を習得しながら、コミュニケーション能力向上の一環としてプランニングやプレゼンテーション技能を体験的に身に付けることをねらいとし、第一回 3R 検定合格者（以下「3R リーダー等」と呼ぶ）が実際に地域に実践デビューし、地域住民に向けて自らが構築した企画をプレゼンテーションすることを目標とした。今回は、3R リーダー等約 20 名を対象として、2009 年 9 月 30 日から 2010 年 3 月 6 日までの半年間にわたり、京都市内を中心に実施した。プログラムの概要を表 6 に記す。

表 5 の①～⑤を一連のチームベースのプログラムとし、グループワークによって地域でプレゼンテーションするためのテーマを決め、その構成を企画立案し、プレゼンテーションの実践に至るスキルの獲得に当たった。講師には、環境教育分野で活躍しているマザー・アース・エデュケーションの松木正氏を招き、松木氏とマザー・アース・エデュケーションのスタッフが講座の進行に当たった。

表 5 の⑥～⑧を一連の個人ベースのプログラム「企画実践講座」とし、「マーケティングを学ぶ」をテーマとした。思いを形にするということが企画の第一歩であるが、そこで「本当の問題」は何か、それを探すことに主眼を置いて入念に進めた。往々にして、ごみ問題はどのようにしてそれを減量していくかに焦点が絞られる傾向があるが、そのごみを生み出しているものごとの背景（社会の背景、家庭の背景など）を問わずして語れないという視点でワークショップ形式による企画会議が進められ、最終的には一人一人が社会に提案するチラシを作るというプロセスを体験した。

また、3R リーダーデビュープログラムの「拡大教養講座」として、以下をプログラムに盛り込み、座学だけでなく生活の現場を見たり、触れたり、実践したり、体験したりする機会を参加者に提供した。

- ・ ものづくりの現場を訪ねる：一澤信三郎帆布工場の見学と座談会
- ・ 町家の暮らしを知り、暮らしの中に今も息づいている 3R の心得を学ぶ体験：秦めぐみさんの秦家住宅の訪問と座談会
- ・ プレイフルなワークショップの実践：上田信行同志社大学教授によるワークショップ

表 6 3R リーダーデビュープログラムの概要

実施日	概要
①2009年9月30日	オリエンテーション・デー
②2009年10月7日	3R 活動ガイダンスとプレゼンテーション・テーマの発見
③以後、チームごとに数回	プレゼンテーション・リハーサルの日まで、2つのグループがそれぞれ随時、主体的に集まったり、連絡を取り合ったりしながら、プレゼンテーションの構成を企画立案し、その実践のための練習に取り組み、リハーサルに備えた
④2009年10月27日	プレゼンテーション・リハーサル
⑤2009年11月4日	一般公開プレゼンテーション見本市
⑥2009年12月2日	ふりかえりワーク
⑦2010年1月12日	企画実践講座・ワークショップ編
⑧2010年1月20日	企画実践講座・座学編
⑨2010年3月5-6日	リーダー向け座談会及び合格者研修会（①～⑧に関する発表を含む）

今回の講座の参加者は、事前には日程とテーマ、大まかな内容しか知らせなかった。参加者の多くは、一般的な考え方としては、座学やワークショップなどを通じて、3R に関する知識やスライドなどのツールを用いたプレゼンテーション及びファシリテーションなどの技能を習得する内容を想像していたと考えられる。ゴールの见えない若干の緊張状態のまま始まった講座前半の短い時間で、参加者のコミュニケーションや相互理解が深まり、連帯感や使命感が共有された得たことは、プログラム開発にあたって導入したスライドショーやアイスブレイクなどの多様なワークショップ手法及び講師を務めた正木氏の技能によるところが大きいと考えられる。チーム編成とテーマを決めるプロセスまでは極めてスムーズに進行した。この体験は、参加者のみならず、運営スタッフにまで実践の技能を伝授した。

チームとチームのまとめ（連絡窓口）役を決めた後は、講師も運営スタッフも各チームのワークに関わることなく、会議の場の提供などの物理的な支援にとどめ、各チームの主体性に任せて次のプレゼンテーション・リハーサルまでの 20 日間、野に放った形である。運営スタッフとしては、参加者が各地に戻り、全く異なる生活や活動を営みながら、それぞれの事情の中でプレゼンテーションの内容を創作し、意思疎通を図りながら役割分担して練習を重ね、リハーサルに臨むことができるか、不安もあった。しかしながら、参加者の問題意識、志が高かったことが、それを実現させたと言うことができる。この 20 日間のリハーサルに至るまでのプロセスは、各参加者にとっても「3R リーダー」として持つべき資質やスキルの体験的習得とその実践になったことだろう。

リハーサルを経て、各チーム相互にプレゼンテーションの内容をフィードバックし、その後、実際に地域での実践（プレゼンテーション）を行った。この地域デビューは、京都市ごみ減量推進会議という受け皿とそこからのニーズがあって実現できたものである。より多くの 3R 検定合格者等が、このように効率よく 3R 社会運動に参加し、実践していくためには、各地にあるこのような受け皿と効果的に連携を図る必要がある。

企業、行政、団体、消費者・生活者などそれぞれの領域で集合体を作り、新しい提言をまとめていくことは可能であるという認識を得たことは、この講座の大きな成果であったと言うことができよう。この成果を踏まえて、ステップアップに取り組む自信を得ることもできた。

今後は、今回のプログラムを改善していくことに加え、各地域の受け皿と連携を図ること、それ以外にもニーズがないか発掘していくこと、3R 検定実行委員会が運営する「3R リーダーズクラブ」のニューズレターなどのメディアを通じて合格者相互が提言を語り合えるプログラムの構築などが急がれよう。